

前回委員会での
ご意見について
(事務局まとめ)

1 ライフステージごとの取組

○ 妊婦

- ・ 妊婦歯科検診の受診率向上対策をさらに検討していく必要がある。
- ・ 平成25年度に県歯科医師会が開始した、市町村を対象とした妊婦歯科検診の初年度補助について、28年度が最終になるので、県からも活用するようPRしてほしい。
 - 市町村歯科口腔保健検討事業で各市町村の施策等について検討。H27→H28にかけて妊婦歯科検診実施市町村が2増(川西町、三宅町)、受診者数が67人増(1,321人→1,388人)。(資料2(5頁参照))

○ 乳幼児期・少年期

- ・ 12歳児のむし歯罹患率、歯肉炎罹患率ともに高い市町村は課題があると思う。
- ・ 12歳児歯肉炎有所見率のばらつきが、ある程度許容範囲の中に収まるようにしていきたい。歯科医師会会員の指導を徹底していきたいと思う。
 - H28年度の結果について、データのばらつきは小さくなる方向に推移。しかし、ばらつきの大きい市町村が一部に存在。(資料2(8頁参照))

- ・ 12歳児のむし歯について、十津川村は未だ県内で一番多いが、1人平均本数は6年前から半減。目標値には及ばないものの下がってきている。
 - H28年度、十津川村は1.57本(35位)で順位が上昇。(資料2(7頁参照))

- ・ 御所市は5年ほど前から市内小学校をあげて、むし歯が減らない原因の調査を実施。子どもたちの面倒を見ている祖父母世代が多いことから、祖父母世代を対象とした歯科保健指導を保健センターに依頼。
市で統一した子ども用の教育教材を作成したり、歯科衛生に対する意識が高くない家庭の児に対する積極的働きかけを実施。昨年度12歳児1人平均むし歯本数1.35本から今年度1.05本に減少した。市町村順位も上昇した。
 - H28年度、御所市は1.41本(32位)で順位が下降。原因については現時点で不明。(資料2(7頁参照))

○ 青年期・壮年期

- ・ 歯科検診の標準化について、歯・歯周病も大事だが、口腔粘膜、顎関節も項目に入れるよう県立医大口腔外科と県歯科医師会が検討しているところ。
→ 平成28年度に奈良県歯科検診ガイドラインを作成。平成29年度に周知のための研修会を実施予定。(資料3(17頁参照)参照)

○ 高齢期

- ・ 歯と口腔の健康を維持向上させることは生活の質を高めるだけではなく、健康寿命の延伸につながるということを県民に発信していかなければならない。
→ 今回、75歳以上高齢者の残存歯数と健康状態等の関係について分析を実施。残存歯数が多いグループほど健康状態がよい傾向にあった。情報発信の方法は今後検討。(資料2(12頁)参照)

2 社会環境の整備

○ よく噛んで食べることに関して

- ・ よく噛んで食べることは、健康寿命の点でも大事だが、実践率の現状値が下がっているため、今後注視していく必要がある。
→ 今年度、時間をかけてよく噛んで(20~30回)食べる人の割合は、3.5ポイント増加。(資料2(11頁)参照)
国の第3次食育推進基本計画(H28.3月)にゆっくりよく噛んで食べる国民を増やすことが目標設定された。H29年度県の第3期食育計画の策定と歯科計画の中間見直しを行う予定。

○ 市町村支援に関して

- ・ 市町村歯科口腔保健条例の制定について、県歯科医師会から各市町村長に働きかけを行っているため、県からもお願いしたい。
→ 市町村歯科口腔保健検討事業で各市町村の施策等について検討。現在7市町(大和高田市・天理市・橿原市・桜井市・五條市・御所市・高取町)が歯科口腔保健条例を制定。